祝福

作　やまもとあや

登場人物

女1
男1
女2
男2
女3
男3
女4
男4

1．太陽

列車。車内。
窓の外には太陽。
女1と男1。
座席に腰掛けている。
女1の手には、白い布で包まれたなにか。

男1　どっちだと思いますか
女1　なんですか

男1、窓の外を指さす。

男1　あれ
女1　あれ
男1　はい
女1　太陽
男1　太陽ですか
女1　太陽です
男1　朝日でしょうか、夕陽でしょうか
女1　あれは太陽です
男1　太陽ですか
女1　太陽、ということで、別にええんやないでしょうか
男1　いいんですか
女1　必要ですか
男1　なんですか
女1　朝日か、夕陽か、どっちとするか
男1　必要です
女1　では、これから昇っていったら朝日で、沈んでいった

ら夕陽
男１　なるほど
女１　ええんやないでしょうか、待っといたら
男１　では、昇っていくのか、沈んでいくのかわからないあれは
女１　はい
男１　あれは、なんでしょうか
女１　だから、太陽
男１　太陽
女１　ただの太陽です
男１　それは、かわいそうじゃないでしょうか
女１　かわいそう
男１　なにものにもなれません
女１　太陽はなんとも思てへんかもしれません
男１　そうでしょうか
女１　他人ですから
男１　他人
女１　太陽も、他人ですから
男１　他人ですか
女１　太陽がなにを考えてるかはわからへん
男１　でも
女１　はい
男１　大事な他人でしょう
女１　大事
男１　生きていけないじゃないですか。太陽がなかったら
女１　あなた
男１　なんですか
女１　しつこいですね
男１　そうですか
女１　妥協します

男１　妥協
女１　あれは、夕陽
男１　どうして
女１　理由はないです。妥協ですから
男１　そうですか
女１　どこまで行きますか
男１　あなたは、どこまで行くんですか
女１　私
男１　はい
女１　見つかるまで
男１　なにがですか
女１　窓の外
男１　窓の外
女１　街並み
男１　街並み
女１　ビルが並んでる
男１　はい
女１　家
男１　家
女１　住宅街
男１　はい
女１　家はだんだんなくなって木だけになっていく
男１　林
女１　抜けると、海
男１　海
女１　誰もいない砂浜
男１　はい
女１　探してます
男１　なにを
女１　捨てる場所

女1は、白い小さな布を抱えている。

男1　夜が来ますよ
女1　なんですか？
男1　あれは、夕陽ですから。夕陽が沈んだら、夜が来ます
女1　大丈夫です。夜が来る前に、見つけますから
男1　そうですか

女1は、白い小さな布を抱えている。

女1　温かい

男1、きいている。

女1　眠ってる

男1、きいている。

女1　小さい口、小さい鼻、小さい睫毛、小さい手

男1、きいている。

女1　動いてる、心臓
男1　それは捨てなくてはいけないものですか

女は応えない。
窓の外には太陽。

男1　落日、落陽、斜陽、日没、西日、夕陽

女1　なに
男1　名前はいろいろありますから

女1は、白い布を見ている。

男1　どうするんですか、捨てた後は
女1　捨てた後

女1、白い布を見る。

男1　いえ、あなたのことです
女1　私の
男1　もちろんです
女1　海外留学とかどやろ
男1　留学
女1　すごい大学に行ってやね、ほんでノーベル賞とかもらうんです
男1　好きなんですか
女1　なにが
男1　外国語、とか、勉強、とか
女1　ストリートミュージシャンになるのもええかもしれません
男1　ストリートミュージシャン
女1　駅で、ギター弾いて、ラブソングしか歌わへんの
男1　ギター弾くんですか
女1　あるいは、せやな、旅人。日本全国、だけやなくて、世界を旅して、美しい景色の写真を撮る。ほんで写真集にして、世界中の本屋さんに置いてもらいます
男1　どこに行くんですか
女1　オーストラリア、中国、ロシア、アメリカ、北極もえ

えな、オーロラ
男1　いいですね
女1　え
男1　自由

女1、黙っている。
窓の外には太陽。
列車は走っている。

女1　捨てた後のこと
男1　はい
女1　わかりません
男1　はい
女1　あれは太陽です
男1　そうですね
女1　それ以上でも、それ以下でもありません

太陽。

溶暗。

2．たこやき

アパートの庭先。
レジャーシートを広げ、座っている女2。
たこやき。四パック。八個入り。
男2、女2を見ている。

女2　食べる？
男2　いらないです
女2　おいしいねんで、たこはちのたこやき
男2　いらないです
女2　たこはちのたこやき、言うてな。たこはちはたこやき屋とちゃうねんで。たこはちは串カツ屋やねんけどな。串カツはまずいねん。食べる？串カツ
男2　いらないです
女2　ごめん、買うてへんかったわ、串カツ
男2　そうですか
女2　たこやき屋になったらええのになあ。たこやき屋でたこはちの方がなんぼか筋が通ってると思うねんけど
男2　毎日ですね
女2　はい
男2　来させてもろてます
女2　せやなあ
男2　大変です
女2　うっとしいなあ思てんで、うちも
男2　そしたらですね
女2　はい
男2　出てってもらえないですかね、アパート
女2　嫌です

男２　なんでです
女２　いてるからね、ここに

土の下。

男２　それもですね
女２　はい
男２　それもですね、毎日ですね、きいてます
女２　状況は変わらへんねんからあたりまえでしょ。たこやき食べる？
男２　いらないです
女２　ほな帰ってくれるか
男２　来週です
女２　なに
男２　始めますから、解体
女２　解体い？
男２　はじめて聞いた風に言わんといてください。毎日言うてるでしょ
女２　そんなんしたら、みんな困りますよ
男２　みんなって誰です
女２　このアパートの人
男２　もうとっくにいてませんから、誰も
女２　うちの部屋、どうなんのよ
男２　出ていかへんならいっしょに壊すしかないでしょ
女２　なんの権限があってそんなことすんのよ
男２　オーナーですやん、僕
女２　オーナー
男２　貸してるんです、みなさんに、部屋を
女２　オーナーやからってなにしてもええの
男２　法律的にあれやこれやちゃんとさせてもろた上でこな

いなってるんです
女２　またそんな難しい話をする
男２　ちゃんとした話をしてるんです
女２　だいたい、私、あんたに借りた覚えないよ、あんたに
　金払ってる覚えもないよ
男２　僕じゃなくて親父でしょ
女２　親父
男２　最初に契約したんは親父ですよ。けど、僕がこないだ
　親父から引き継いだもんで
女２　お父さん
男２　ええ。せやから、ここは、今、僕の土地で、僕のアパ
　ートですから。僕がなにしてもかまへんのです
女２　なにしてもええことないでしょ
男２　なんですか
女２　どうすんのよ
男２　なにがですか
女２　いてるねんで、ここに

　土の下。

男２　いないでしょ、誰も
女２　いてるよ

　土の下。

女２　寂しいでしょ
男２　え
女２　うちがいてへんかったら

　男２、女２の隣に座る。

男２　もらっていいですか
女２　ええよええよ

男2、たこやきをひとつ食べる。
女2、男2の顔を見ている。

女２　君は
男２　はい
女２　お父さんそっくりやなあ
男２　なんですか
女２　顔
男２　よう、言われます
女２　物言いもそっくりや
男２　それも、よう、言われます、けど
女２　けど
男２　不愉快ですね
女２　フユカイ
男２　いっしょにされたくないですわ
女２　そんなん言うたら、お父さんあの世で泣いてまうわ
男２　なんで急に殺します？
女２　だって、土地を継いだって言うたでしょ
男２　生前贈与、生前贈与
女２　また難しいことを、難しいこと言うたびにたこやき食べるルールにしたろか
男２　そない食べられませんて
女２　元気か、お父さんは
男２　元気ちゃいますわ
女２　元気ちゃうんかい
男２　こないだ倒れて、病院入りましたけど

女2　うん
男2　息はしてますけど、目も開いてますけど
女2　うん
男2　もう、ながくないみたいですわ

土の下。

女2　花ないな
男2　花
女2　庭。植えとったやん。田中のおっちゃんが
男2　抜きました
女2　なんでそんなことするん
男2　僕んちの庭に植え替えました
女2　なんで
男2　重機とか入るから。踏みつぶされるのもなんか
女2　なんか
男2　なんか、あれでしょう
女2　あんた
男2　はい
女2　あんたは、優しいな
男2　優しいですよ、僕は
女2　そうか

女2、たこやきをひとつ食べる。

男2　今は、寂しくないんですか
女2　え
男2　土の下

男2、指をさす。

女2　寂しくないよ
男2　だからあなたは、ずっとここにいてるんですか

土の下。

女2　たこやき食べる？

男2、食べない。

男2　親父が、よう買うて帰ってきてました。たこはちのたこやき
女2　そう
男2　かりっとして、甘いソースで
女2　うん
男2　うまいやろ。って、自慢げに言いますけど。いや、お前がつくったんちゃうやん。って思って。嫌いですけど、親父と、たこやき食べる時だけ、少し話して
女2　うん
男2　高校卒業する前に、たこはちは二代目にかわって、なんか、とろっと系のやつに変わって。親父はいまいちやなって顔しとって。親父とたこやき食べたんはそれが最後で。僕は、東京の大学にいって、夏に家帰った時にはたこはち、潰れてましたわ
女2　うん
男2　三十年前の話です
女2　うん
男2　ずっと、ここにいてるんですね

女2、たこやきを見ている。

女2　三十年か
男2　はい

女2、たこやきを食べる。

男2　来週です

女2、たこやきを食べている。

男2　来週です

女2、たこやきを食べている。

男2　来週です
女2　うるさいなあ
男2　ずっと粘ってたんですけど。親父。倒れてから、僕。なんぼ粘っても、先延ばすだけで、結論は変わらへんもんで。あとは、ここだけなんです。残ってる家。来週です。周りの家、今まで見てきました。重機が入ってきます。大きい重たいハサミみたいなんつけたやつです。この庭を踏み荒らします。空っぽの家を挟んで、ばりばりと引き裂きます。次々に粉々にします。小さくなった家だったものを、トラックに乗せて、どこかに連れていってしまいます。まっさらになります。ここはなにもない場所になります。そこにアスファルトを敷きます。車が悠々と走ります。すべて、なにもかも、なかったことになります

女2、たこやきを食べる手を止める。

男2　もう、来週なんです

女2、たこやきを見ている。

男2　出ていってください

女2、たこやきを見ている。

女2　それだけは、できひんなあ

女2、たこやきをパックに戻す。
土を見る。

女2　雨の日。冬。寒かった日。夜はすぐにやってきた。部屋のなか。なっちゃんはひとりきり。顔は涙でぐちゃぐちゃ。震える体。縮こまる体。少しして、緊張が解けて、大きく息を吐く。痛みは波のように、押し寄せ、引き、また押し寄せる。痛みがやってくるたびに、なっちゃんは枕を顔に押し当てて、声を、押し殺しとった。最後の力を振り絞った時、小さな泣き声。なっちゃんは体を起こして、鋏で臍の緒を切った。濡れた体を拭いて、白いタオルにくるんで寝かせた。なっちゃんは安心したように目を閉じた。起きたら、名前を、決めようと思った

女2、土を見ている。

女2　雨の音。雨を走る原付の音。学校に向かうこどもたちの笑い声。弱い、光。なっちゃんは目を開けた。部屋のなかは静か。とても、静か。呼吸の音がきこえへん、鼓動がきこえへん、なにもきこえへん。なにも

土。

男2　それから、どうしたんですか

女2、応えない。

女2、土を撫でる。

男2　なんぼでも、方法はあったでしょう

土の下。

女2　おもろいなあ

男2　なんですか

女2　方法って、なに

たこやき。

女2　あんたは知ってんの

男2、応えない。

女2　そっくりやな

男2　なんですか

女2　君は、お父さんと

女2は、たこやきをパックごと男2に渡す。

男2、受け取る。

女2　いつもたこやきを買うて来とった

たこやき。

女2　優しい人やったわ。それだけや

男2、たこやきを食べる。食べる。食べる。

女2　うまいやろ
男2　うまいですわ
女2　待っててくれてんの、うちがいくの
男2　うるさいですね
女2　え？
男2　僕は今、たこやきを食べてます
女2　せやな
男2　僕はいつも、見てるだけですわ
女2　見てるだけ
男2　見てるだけやから
女2　見といて

男2、応えない。

女2　いてるからね、ここに

土の下。
男2、応えない。

女2　うちはずっといてるから

女2は、土を見ている。
男2、女2を見ながら、たこやきを頬張る。

『祝福』

溶暗。

3．光合成

高校の、美術の準備室。
小さな鉢植えに、はっぱ。
女3、制服を着ている。
男3、ポロシャツにスラックス。

女3　わかりましたか
男3　なんですか
女3　名前
男3　難しいね
女3　難しい
男3　なんの変哲もない、というのが逆に
女3　オオトモ先生にきいてみましたか
男3　オオトモ先生
女3　生物やないですか
男3　最近忙しそうで
女3　忙しい
男3　運動部はね、ほら、地区大会が近いから
女3　暇なんですか
男3　なに
女3　先生は
男3　美術部やからね
女3　わからへん。なんで描かれへんのに美術部なんか
男3　僕もわからへん
女3　ナガノ先生いてるのに。美術の
男3　テニス部顧問やからね。絵も描けるし、運動もできる。
　神様は簡単に二物を与えんねんね
女3　テニス部、地区大会突破するんですかね、多分

男３　僕はナガノ先生の留守を守る大事な仕事があんねん
女３　そら大変ですね
男３　まあ、大会終わったら、きいてみるわ。はっぱの名前
女３　歪ですね
男３　いびつ
女３　はっぱのかたち
男３　最適化しようとしてるんやろか
女３　最適化
男３　より多く、太陽の光を集めるために
女３　光合成
男３　そう
女３　貪欲ですね
男３　そうやね
女３　なんのためにそんな貪欲なんでしょうね
男３　なんのためにとかあるんやろかね
女３　見てください
男３　なに
女３　このはっぱは大きいのに、このはっぱはとても小さい
男３　せやなあ
女３　君は日の光が当たらんくてかわいそうやなあ、僕の栄養をわけてあげるよ、とかならへんのですね。自分ばっかり大きくなったらそれでええ
男３　全体でひとつなんちゃう
女３　全体で
男３　はっぱはひとりひとりなんじゃなくて、これで、ひとつの意思
女３　難しい話しようとしてます
男３　難しないよ、これが、ひとつとして、生きるために貪欲やねん、ってこと
女３　人間も同じですかね

男３　君こそ難しい話にしようとしてる
女３　では、われわれ人間は、なにを完成させようとしている
　のか
男３　大いなる意思がどこかに存在するわけや
女３　都市伝説めいてきましたわ
男３　信じるか信じないかは
女３　名前わからへんねやったらなんですか
男３　なに
女３　なんか用事ですか
男３　ハラサキとなかええやろ
女３　マイコですか
男３　そう
女３　なかいい、まあ、なかいいですよ、普通くらい
男３　どないしてるやろ、最近
女３　なんできくんですか、そんなこと
男３　もう二か月なるやろ、学校来おへんくなって
女３　そうですね
男３　理由もわからへんから、どないしたらええか
女３　なんで私に聞こう思たんですか
男３　部活、いっしょやん
女３　半年くらいきてませんけどね、幽霊部員
男３　ほんで、もしなんか知ってたらなと思うて
女３　先生は、なんも知らへんのですか、マイコのこと
男３　３年になってすぐやったし、それまで授業持ったこと
　ないしなあ。電話もしたけど、本人出てくれへんから。親
　にも話してくれへんて
女３　そうですか
男３　なんか知らんか
女３　先生なんかしたんとちゃいますか、始業式初日に
男３　してへんよ

女３　ほなちょっとわからへんなあ
男３　なに見てんの
女３　図鑑ですよ
男３　図鑑
女３　調べてるんです、名前
男３　気になるか、そんなに
女３　もっと大きくなるんやろか、とか
男３　うん
女３　花は咲くんやろか、とか
男３　うん
女３　どうやって増えるんやろ、とか
男３　うん
女３　食べられるんやろか、とか
男３　うん
女３　毒はないやろか、とか
男３　ないよ
女３　わかりますか
男３　わからへんけど
女３　アブない植物やったらどっか持ってかなあかんでしょ。
　保健所？
男３　どっから持ってきたん、それ

　はっぱ。

女３　食べてみますか、先生

　はっぱ。

女３　用事、終わりですか、それで

はっぱ

女３　水、あげてるんですか
男３　せやで
女３　毎日
男３　毎日もいらへん、週に１、２回
女３　あとは光だけですか
男３　そう
女３　もっと栄養やったらすくすく育つんちゃいますか
男３　栄養
女３　なんか、ありますやん、観葉植物にぴっと刺してるやつ
男３　そんなん、いらんのんとちゃう。育ってんねんから
女３　わからへんでしょ。やってみな
男３　育ってほしい？
女３　こんな不細工な格好で生きてんねんから。思いに誠実になってあげた方がええんとちゃいますか
男３　なんも思てへんと思うよ。植物やねんから
女３　晴れ
男３　晴れ
女３　はれ、はれ、はれ、愛、太陽、あたたかい、水、好き
男３　なに
女３　言葉のシャワー。ええことばを与える
男３　なにそれ
女３　ポジティブな言葉は栄養になります
男３　植物やねんから
女３　音楽聞かせるとかありますやん
男３　ああ、ハウスとかで
女３　なんの音楽がええでしょうね
男３　どなどなどーなどーな

女３　売らんといてください。ほんで暗いですし
男３　ぐりーんぐりーん、青空には
女３　明るそうですけど、実は暗いでしょ、歌詞が
男３　僕の音楽の知識ではなあ
女３　♪
男３　終業式が終わったらな、この学校辞めんねん
女３　どないするんですか、学校辞めて
男３　富山にいくねん
女３　富山ってどこですか
男３　北陸、日本海
女３　奥さんの実家ですよね
男３　知っとったん
女３　前、教えてくれたでしょ
男３　ここはな
女３　はい
男３　人が多くて
女３　はい
男３　ストレスが多い
女３　はい
男３　あっちはな、綺麗やねんて、空気が
女３　おめでとうございます
男３　え
女３　お父さんになるんですよね
男３　え
女３　オオヤブ先生にききました
男３　ああ
女３　マイコ、こども産むんやって
男３　え
女３　学校辞めて、彼氏も辞めて、働くって
男３　そんなん

女3　あほでしょ
男3　え
女3　無理でしょ、そんなん、今産んだって、高校中退で、大した仕事もなくて、ほんで彼氏が逃げたりしたら、どないすんの、浅はかやん、考えてること。決められへんから、惰性でしょ。そんなん

はっぱ。

女3　あほでしょ

男3、土下座。

女3　なんですか、それ
男3　ごめん
女3　なにを謝ってるんですか。どうして、誰に、何に対して。そうですね、何に対して、ですか
男3　なかったことにしてほしい
女3　なかったことに
男3　ごめん
女3　ないですよ、なにも、私と、先生の間には、なにも

はっぱ。

女3　はっぱになりたいですね
男3　はっぱ
女3　ただ、陽の光を浴びて、幸せを感じていたいです

はっぱ。

女3　ありがとうございます

女3、はっぱを手に取り、男3に差し出す。

女3　これ、持っていってくださいね

女3、去る。

男3と、はっぱ。

溶暗。

4．ケーキ

団地の一室。
ダイニングテーブル。
男4と女4が座っている。
テーブルには小さな箱。
皿とフォークが2セット。
男4、スマートフォンを見ている。

男4　やばい
女4　なに
男4　めっちゃかわいい
女4　なんやねん
男4　なにこれ
女4　寝相アート
男4　ハーフバースデーってなに
女4　ハーフやん、1歳のハーフ
男4　6か月、か、6か月ってこと？
女4　せやん
男4　やばい
女4　なに
男4　めっちゃかわいい
女4　はいはい
男4　もっと送って写真
女4　はいはい

女4、スマートフォンを操作。

男4　待ち受けにしてええ

女４　どうぞ
男４　（画面を見て）これはなんなん
女４　離乳食でな、ケーキのかわり
男４　おかゆと
女４　にんじんとか、ほうれんそうのペースト
男４　すごいな
女４　すごいよ
男４　はよかえってきたらよかった
女４　そんな、はよ帰ってきてもらうほどのイベントちゃう
　　し
男４　あかん
女４　なに
男４　（立ち上がろうとする）今日、こはるに会うてへん
女４　写真見たからええやん
男４　見てたら会いたなってきてん
女４　ええからはよ食べよ
男４　なに
女４　ケーキ
男４　ケーキ

女４、箱を開ける。
苺ショートと、チョコレートケーキ。
皿に乗せる。

男４　どしたん
女４　私が食べたかってん
男４　ハーフバースデーやから？
女４　せやな
男４　言ってくれたら買うてきたのに
女４　ええねん

男４　これ、隣町のケーキ屋?大変やったんちゃうん、電車
　いっしょに連れて
女４　苺でええ?
男４　うん
女４　私、チョコな
男４　歌おか
女４　歌う?
男４　（こはるがいる部屋に向かい）♪ハッピーバースデー
　トゥーユー
女４　無駄にええ声やけど
男４　♪ハッピーバースデートゥーユー
女４　起きてまうから静かにしようか
男４　（小さいな声で）♪ハッピーバースデーディアこはる
　～ハッピーバースデートゥーユー
女４　いただきます
男４　いただきます

二人、一口食べる。

男４　なに味が好きになるやろな
女４　なに
男４　こはる。苺ショートか、チョコか
女４　どうやろな
男４　俺んとこ、クリスマスはいっつもけんかでさ、姉ちゃ
　んはチョコ派で、俺は苺ショートで、どっちのケーキにす
　るか
女４　私はひとりっこやから毎年選び放題やったけど
男４　ええなあ
女４　こどもセンターがさ
男４　なに

女４　こどもセンター
男４　なにそれ
女４　一回、日曜にいっしょにいったやろ。遊具とか、絵本とかあるところ。おんなじくらいの子ぉらが来てて。保育士さんが子育て相談とか、赤ちゃん教室とかしとって
男４　ああ、あそこ
女４　しまってしもて
男４　そうなん
女４　ちゃうとこ移転して、先月
男４　どこ
女４　ミドリ町
男４　なんやん、すぐそこやん
女４　すぐ
男４　うん、地図だそか
女４　ええねん、それは知ってるから
男４　ああ、どしたん、そこが
女４　別に、それだけ
男４　そう
女４　免許とろっかな
男４　免許
女４　免許
男４　免許って車の
女４　そう
男４　なんで
女４　６か月過ぎたらな、免疫落ちんねんて。母親からもろとった免疫の貯金なくなって。自分だけでやってくねんて。風邪とか、引きやすくなるって
男４　そうなんや
女４　病院ないやん、この辺
男４　そんなん、俺、帰って来るし、仕事

女４　嘘やん
男４　なんでやん
女４　こないだも全然メッセージ見てへんかったやん
男４　あれは会議が連続やったから
女４　そんなんこれからしょっちゅうになんねんから
男４　だいたい免許って、その間、誰が面倒みんねん
女４　せやな
男４　うん
女４　とっといたらよかったな、免許
男４　お前、方向音痴やし、不安やて
女４　せやな
男４　ほんま、緊急やったら、会社に電話してくれたらええ
から

男４、一口。
女４、食べない。

男４　はよ、食べんと、クリーム、溶けんで

女４、食べない。

女４　好きな時に行っとってん
男４　え
女４　こどもセンター
男４　ああ
女４　すぐそこやったから。手ぶらで、ふらっと、おもちゃ
で遊んで、ほかのお母さんと話して、保育士さんと話して、
ねむなったら、お腹減ったら、帰って。一回、新しいとこ
行こうとしてんけど、地図やったらすぐそこやけど歩いた
ら三十分くらいかかるみたいで、ほんならおむつとか授乳

セットとか着替えとかいるやん。せやから鞄に詰め込んで、重たくって、ベビーカーひっくり返りそうで、行こうとしたらうんちして、おむつかえたらミルクの時間になって、終わったらもう寝始めてしもて

男４　うん

女４　もう、行くのめんどなってしもて

男４　そんなん、無理していかんでもええんちゃうん。ちょっと散歩とか、買い物とか、そんなんで十分ちゃうん

女４　それもせやな

男４　いる、苺

女４　ええよ

男４　そうか

女４　離乳食、全然進まへんねん

男４　そうなん

女４　もう一か月、やってんねんけど

男４　うん

女４　なにがあかんねやろな、口に入れてもべぇって出すし

男４　そんなん、いつか、食べるんちゃう

女４　ようわからへんねん

男４　なにが

女４　ずっとこの部屋にいてたら。今が何月なんか。あったかいんか、寒いんか、朝なんか、昼なんか、夕方なんか。買い物は全部ネットショッピングで、テレビはずっと点いてて、テレビの向こう側の人はなんで笑ってんのか、なんで泣きを怒ってんのか、この子はなんで怒ってんのか、なんで泣き止まへんのか、どうしたら泣き止むんか。どうしたら静かになってくれるんか。この子と、私。私と、この子。この部屋でたった二人

男４　あのさ

女４　なに

男４　今度、日曜さ、俺、一日みとくからさ、どっか、外、行って来たら。買い物でも、映画でも
女４　隣町までケーキを買いに行った
男４　え
女４　階段上って、改札。ICカードをタッチして、ホームに入ってきた電車に飛び乗る。昼下がり。各駅停車。座席はまばらに空いている。私は端っこに座る。うたた寝する人。本を読む人。スマホを眺める人。窓の外。家が並ぶ。河川敷。狭い川を渡る。曇り空。鳥が飛んでいる。静かな車内。到着のアナウンス。その駅には、あのケーキ屋がある。苺ショートとチョコレートケーキ。箱に二つのケーキを詰めて。たった一駅。行って帰って、手には財布とケーキの箱だけ。私のちいさな旅
男４　ひとりで行ったん

女４、応えない。

男４　置いてったんか
女４　想像しただけ
男４　想像
女４　あの子が寝てる間に、ベランダに出て、想像しただけ

男４、なにも言わない。

女４　食べてええよ
男４　え
女４　私の分も
男４　なんでやねん
女４　嘘
男４　嘘？

女４　コンビニで買うてん。そのケーキ

男４、なにも言わない。

女４　ビールも買うたらよかったな
男４　ええよ、今日は
女４　コンビニは近くやから
男４　もうええから
女４　のみたいねん、私が

女４、財布を手に取る。
立ち上がり、玄関に向かう。
男４、女４を追い、彼女の腕を掴む。

男４　行くんか
女４　なに

男４、手を離す。

男４　いや
女４　泣いたらお願いな

女４、出ていく。
男４はひとり。
ケーキの前に座る。

男４　溶けてるやん、もう

静かな部屋。
二つの食べかけのケーキ。

『祝福』

溶暗。

5．どんぐり

列車。
男1と、女1。

男1　このまま止まってしまったら、どうなるでしょうね
女1　え
男1　太陽
女1　滅びますね、世界
男1　大きく出ましたね
女1　今、あそこで太陽が止まったとしたら
男1　はい
女1　地球がふたつにわかれるわけです
男1　ふたつに
女1　ずっと昼の国とずっと夜の国
男1　なるほど
女1　昼の国はずっと昼やから、植物がよく育つ。人々は働き続ける。夜の国は作物が育たない。けれど人々は秘密の集まりをすることができる
男1　はい
女1　世界がふたつにわかれたら、だいたい、次はあれですね。戦いますよね、お互いのないものねだり。人間の性
男1　切実ですから。食べるものがないというのは
女1　いや、でも意外とあれですね。こんなに技術が発達してるわけですから。人工の夜も、人工の昼もできてしまうかもしれませんね
男1　確かに、そうですね
女1　では
男1　はい

女１　世界は変わらない、ということですね
男１　変わりますよ
女１　そうですか
男１　昼に会えないことも、夜に会えないことも、寂しいこ
　とです
女１　どうしていつも当たり前にそこに在ると思ってしまう
　んでしょうね
男１　え
女１　太陽

　太陽。

女１　昼を昼として
男１　はい
女１　夜を夜として
男１　はい
女１　世界に線をひきます
男１　はい
女１　昼は夜の静けさを羨み、夜は昼の輝きを妬みます
男１　はい
女１　昼は夜の苦しみを知りません、夜は昼の悲しみを知り
　ません
男１　はい
女１　そんなこと、頭ではわかってました。どうして私の手
　に入らへんかったんやろうかと、嫉妬します
男１　それは
女１　え

　男１、巾着袋を取り出す。
その中に手を入れて、なにかを握る。

男1、握った手を女1の前に。

女1　なに

男1、手を開く。

女1　なにこれ
男1　どんぐりです
女1　どんぐり
男1　僕のお母さんは、とてもやさしい人です
女1　うん
男1　僕のお父さんも、とてもやさしい人です
女1　うん
男1　どんぐりは、いっしょに拾いました。秋、植物公園。こどもの時です。いっこ、にこ、さんこ。てのひらで抱えきれなくなって、ぽろぽろとこぼす。お母さんが、スーパーの袋をくれる。集める。家に持って帰って。庭に埋める。どんぐりのたくさんなる木を夢見る。ぷかぷかと浮かぶどんぐり。お父さんが教えてくれました。中身が虫に食い尽くされているどんぐりがある。水に入れるとわかる。空っぽやから、ぷかぷかと浮かぶって

男1、どんぐりを、太陽の光にかざす。

男1　見てください
女1　うん
男1　僕のどんぐりです。僕は幸福でした。けれど、やがて、どこか心臓のまんなかから、どんぐりが、ひとつ、ふたつ、みっつ、ぷかぷかと浮いているようになりました。今もです

どんぐり

女1　どうしてですか
男1　え
女1　幸福やなかったんですか
男1　幸福でした。でも、知ってしまいました。知ってしまうと、簡単にひっくり返りました
女1　そんなものですか
男1　望まれへんかったんです
女1　え
男1　父と母は、私を赤ん坊の時から育ててくれました。父は十年前に亡くなりました。母と二人で暮らしてます。夕暮れ時。車いすに乗った母と散歩します。ある日、母が好きないつもの公園。車いすを止めて、急に言いました。あなたを産んだ人は別にいると。母は夕陽を見ていました。私を赤ん坊の時に、父と母に託した人。見たこともない。会ったこともない。私に名前を付けることもなく、私と別れた人がいると

男1は、どんぐりを見ている。

男1　もうすぐ、その人の命が終わるのだと、最近、いろんなことを少しずつ忘れていく母が、突然、教えてくれました
女1　それで、どうしたんですか
男1　あなたが決めたらいいと、言われました。あなた自身が
女1　どうしてお母さんはそう言ったのでしょうか
男1　わかりません

女1　わからない
男1　列車に乗りました。知らない街、知らない家。それでも、なにも決められません。本当に行くのか、行ってどうするのか。まだ決められません。空っぽのどんぐりが増えていくだけなのか
女1　いったい、なにしに行くんですか

太陽。

女1　夜が来ますよ
男1　え
女1　深い夜を越えて、また朝が来ます
男1　はい
女1　太陽は南の空高くを越えて、また落ちていきます
男1　はい
女1　昼と夜を呆れるほどに繰り返して
男1　はい
女1　太陽を浴びて、夜に休んで、繰り返して繰り返して、樹は育って、どんぐりを落とします。何度でも、両手からこぼれるくらいに、拾って集めたらいいんです。空っぽでも、虫に食われたものでも、なんでも、何度でも

男1、どんぐりをかざす。

溶暗

6．夜

夜。
駅のホーム。
男3と、女2がベンチに座っている。
男3、傍らにスーツケース。
女2、ビニール袋とたこやき。
二人きり。
急行が通り過ぎていく。

女2　幽霊の寿命について考えてんねん
男3　幽霊の
女2　幽霊の
男3　寿命
女2　寿命
男3　死んでるでしょ、すでに
女2　縄文人の幽霊見たことある
男3　ないです
女2　平安貴族の幽霊見たことある
男3　ないです
女2　落ち武者はどやろ
男3　落ち武者は、きききますね
女2　ということは五百年以上千年未満やろか
男3　信じてませんけど
女2　なに
男3　幽霊
女2　嘘やん
男3　なんでですか
女2　いてるって、幽霊

男３　見えないものは信じません
女２　空気だって見えへんで
男３　そんなこどもみたいな
女２　たこやき食べるか
男３　いや、いいです
女２　なんでよ
男３　進んでますね、再開発
女２　せやね
男３　道を広げるわけです
女２　そういうわけです
男３　除かれて、埋められて、記憶は地層になって、幽霊は
　忘れられていく
女２　なんで残ってしもてんねやろね
男３　なんですか
女２　この世に
男３　心、残り
女２　ほお
男３　心が、残ってしまってる
女２　うまいこと言うなあ
男３　どうも
女２　ほな、あんたの肩にのっとるもんも、心残りなんやろ
　なあ
男３　え
女２　嘘やん嘘。たこやき食べる
男３　いいです
女２　どこに行くのん、そんな大荷物で
男３　引っ越すんです。嫁の実家
女２　どこよ
男３　富山
女２　今から

男３　夜行バス。乗らなあかんから、大阪駅行きたいんですけど

女２　そうか

男３　あきませんね、全然各停が止まらへん

女２　なんで引っ越すのん。ええとこやで、大阪は

男３　僕もいてたいんですけど

女２　ほなおったらええねん

男３　あっちで子育てしたいんですって

女２　こども

男３　生まれるんです、来月

女２　まあ、ええなあ。はじめてなん

男３　え

女２　こども

男３　一人目です

女２　そう

男３　父親になるってね、難しいですね。ほら、よう言うでしょ。母親はお腹ン中にこどもが十か月いてるわけやから、少しずつ母親になっていくでしょ。男はだめですね。全然実感わきませんわ。こどもが生まれたその時に急に父親になるって

女２　大変やなあ

男３　ええんですけどね、僕も、こっちに縁ないし。どこにおってもいっしょやから

女２　これ

男３　え

ビニール袋から、緑のはっぱ。
小さな植木鉢。

女２　忘れていってたで

男３　え
女２　忘れてたんやろ、アパートの庭
男３　あそこの、アパートの人ですか
女２　追いかけて来たったんやんか、忘れてたから
男３　そうですか
女２　新しい家は、マンションか
男３　戸建てです
女２　庭に植えたらええよ
男３　危ないですから
女２　危ない
男３　このはっぱ、毒がありますから
女２　毒
男３　はっぱを口にしたら、はっぱが触れたら、樹液に触れたら、そこから体中を毒が回って、そんなん、こどもの傍に置かれませんから
女２　食べて
男３　え
女２　たこやき
男３　嫌いなんです、たこやき
女２　うっっっそやん、なんで、そんなことある
男３　なんか、死ぬほど作らされて
女２　たこやきを
男３　親父に
女２　はあ
男３　親父的に、なんかあるみたいなんですよね、今日はたこやきの日、みたいなんが。それが急にやってきて、そしたら僕がたこやき機出してきて、青ネギ切って卵割って、混ぜて。触りたくないんですけど、卵。アレルギーやから。せやけど、手、掻きながら割って。たこやきの具材は常備で。まずい、下手糞って言いながら全部食べるんです

女３　お母さんはつくらへんの
男３　両親、僕が生まれてすぐ離婚して。別に僕に興味もないくせに。親父が俺を引き取って。おかんに僕を盗られるのが嫌だったんですかね、多分、それだけです。親父も、僕が大学入った頃に死んでもうたんですけど。嫁ね、すっごい普通の家族でお父さんが高校の先生で、僕と一緒で、よう、お酒飲んでくれて、お母さんが書道教室やってて、料理うまくて、妹さんは大学行ってて。家、建ててくれるんですって。二世帯とかちゃいますよ。ほどほどの距離感
女３　もしかしたら僕も普通に祝福されるかもしれへんって、錯覚させてくれる
男３　え
女２　右肩にひとり、背中にひとり、左足にひとり
男３　え
女２　この世から引きずり出されたままの姿でいてる
男３　なんのことですか
女２　真っ赤で、小さくて、小さい小さいからだで、あんたにぎゅうとしがみついて

男3、背後を見る。
男3、右肩を、左足を見る。
見えない。

男３　嘘でしょ

女2、応えない。
男3のことを見ている。
男3、背を払う、払う。

男３　あ、あ、

右肩を払う払う。

男３　あああ

左足を払う払う払う。

男３　あああああ

全身を、払う。

女２　離さへんよ

男３　え

女２　小さい指。しがみついてる。あんたの皮膚に

男３、剥がす。剥がす剥がす剥がす。

見えない。

男３　なんで、なんで僕やねん。なんで、僕、なんか、悪いことしました？

女２　悪いこと

男３　みんな、ええよって、言うてくれたんです。今日はないねん、今日はつけたくないねん、今日は寂しいねんって言うたら、みんな、ええよって、許してくれるんです、しんどかったんやね、つらかったんやね、って抱きしめてくれます。そうですね、僕が悪いんかもしれません。僕が悪いんです。せやから、ちゃんと同意書も書きましたし、お金も全部払いました。一緒に責任とりました。せやのに、なんで、なんで僕の方に来るねん

女２　なんでって、なに言うてるの。君は、その子らの、父

親やろ
男3　父親

女2、はっぱを差し出す。

女2　なあ、お父さんやろ

男3、応えない。
列車の音。
音が近づいてくる。

男3　あなた、誰ですか
女2　え
男3　なんか、声だけきこえるんですけど。なんにも見えないんですけど
女2　なに言うてんの
男3　僕はなかったことにします。すべてに蓋をします。見えないものは在りません。僕、見えませんから、幽霊
女2　こんなにうちと話してくれたのに？

男3、応えない。

女2　なあ、見て

男3、応えない。

女2　見て

男3、応えない。

女2　ナツミ
男3　え
女2　ヨシダナツミ

男3、応えない。

女2　うちの名前

男3、応えない。

女2　昔、ちゃんと生まれてきた。この世に

男3、応えない。

女2　今も、ここにおる

列車が止まる。

女2　忘れもの

緑の葉。

男3　なんにもありませんけど

緑の葉。
男3、スーツケースをひき、電車に乗る。

女2　あんたの上に二度と太陽は輝かへんで

男3、応えない。

扉が閉まる。
走り出す列車。

女2　君だけなかったことにはならへんで

女2の手には、はっぱ。

女2　手を繋ぎたかっただけやんなあ、お話をしたかっただけやんなあ、抱きしめられたかっただけやんなあ。それだけやねん。それだけやってんなあ

はっぱはなにも応えない。

女2　夜。夜。夜。暗い。見えへん。なんにも見えへん。でもなあ。感じてみて。ときどき、あったかいねん。温もり、ある時もあるねん。夜はなあ、ときどき、抱きしめてくれんねん。夜にはな、居場所がある気がするねん

はっぱ。

女2　なあ、うちがあんたの夜になってもええか

はっぱ。
女2、はっぱを抱いている。
夜。

溶暗。

7．弔う

アパートの前。
雨。
男2、庭を掘っている。合羽。
女3。片手に傘。片手に袋。

女3　掘ってますか
男2　掘ってますけど
女3　掘ってますね
男2　掘ってますよ
女3　埋めるんですか、死体
男2　埋めへんわ、通りがかりになんてこと言うねん
女3　埋めそうな顔してたから
男2　埋めるとしてもこんな街の真ん中に埋めへんわ、山奥とか、海に沈めるとかやな
女3　埋めるは埋めるんですね
男2　埋めへん。たとえやたとえ
女3　もっと、晴れた日にしたらええんとちゃいますか。掘るんやったら
男2　はじまるから
女3　なんですか
男2　解体、明日から
女3　解体
男2　これ、アパート。更地にして、道広げんねんて
女3　ほな、あれですね
男2　なんや
女3　山とか海に行かんでも、ここに埋めといたら、勝手にアスファルト敷いてくれますやん。完全犯罪

男２　君はそんなに埋めたいんか
女３　埋めたくないんですか
男２　掘って、出してんねん
女３　出す
男２　探してんねん
女３　なにを
男２　もうおじさんのことにはかまわんと、さっさと家に帰
　ってほしい
女３　出るって噂ありますよ
男２　出る
女３　このアパート、幽霊
男２　あほらし
女３　頭から否定
男２　僕、大家やし
女３　大家だからこそとちゃいますか
男２　なんやねん
女３　事故物件。秘密にして、貸して。悪徳
男２　なに言うてんの。クリーンよ、僕は
女３　髪の毛ぼさぼさの男が上半身裸で夜中階段に座ってる
　とか
男２　それは２０１に住んどった田中さんや
女３　包丁持ったおばあさんが庭先歩いているとか
男２　１０３の鈴木さん
女３　毎日夕方４時４４分に悲し気な歌が聞こえてくるって
男２　１０５の西田さんが歌っとんねん。あれはポップスや
　言うてたよ
女３　人間かいな
男２　悪いか。みんな愉快な住人さんや
女３　もういてへんのですか
男２　そらせやわ

女３　どこいったんですか
男２　別のアパート紹介したり、田舎に帰らはったり、亡くならはったり、施設に入ったりしたと思うけど
女３　女の人がね
男２　え
女３　歩いてるんです。明け方
男２　歩く
女３　２階の端の部屋。ドアの前。女の人が立ってる。こっち向いてるはずやのに、顔が見えへん。階段を降りる。降り切ったって思った時、ちょうど塀でその人、隠れてて
男２　はい
女３　庭が見えそうな隙間に行って、のぞき込んでみたら
男２　はい
女３　いなかったんです、女の人
男２　はいはい
女３　いなかったんですよ?どこにも
男２　それだけ
女３　それだけ
男２　そうか
女３　それは、誰ですか
男２　誰やろね
女３　怖いでしょ、怖くないですか
男２　君は、ほんまに、なんやの
女３　雨、降ってますから
男２　雨
女３　これ以上、歩くのもだるいなあ、思て、話しかけてます。おじさんに
男２　屋根あるとこに座ってったら。休憩
女３　座ったらもう二度と立ち上がられへん気がします
男２　そんな具合悪いんやったらはよ、帰りて。呼んだろか、

タクシー
女３　なんですか
男２　なんやねん
女３　優しいっすね
男２　どないすんねん、ほんで
女３　いいです、もうちょっとしたら、行ける気しますわ
男２　なんやねんそれ
女３　手、止まってますよ
男２　ほな話しかけんといて
女３　暗なったらますます犯罪者感が出ますね
男２　君、東高か。そこの
女３　そうですけど
男２　先輩やで、僕
女３　あ、そうですか
男２　リアクション薄
女３　数十年前の先輩言われても、はあ、そうですか、ってくらいでしょ
男２　部活は
女３　文芸部
男２　あかんわ。接点ゼロ
女３　なに部やったんですか
男２　生物部。毎日、観察、栽培
女３　陰キャっすね
男２　文芸部に言われたないわ
女３　私は陽キャな文芸部です。毎日楽しいです
男２　おんなじやわ
女３　なんですか
男２　おんなじ道歩いてたわ。高校生の時。あっちから、このアパートの前通って
女３　はい

男2、ベンチに座る。

男2　ここ、埋まってんねんて
女3　え
男2　そやって、言うねん。その人。ずっと。ずっと、そこに座ってんねん
女3　え、なんの話ですか
男2　その人、部屋で一人で死んどったらしい。親父が誰かと電話で話しとった。身寄りがないって言うて、親父が火葬やなんやしとった。けど、アパート通ったら、おんねんな、その人。庭でじっとしとる。じっと、土を見とる
女3　それはなんですか?怪談?怪談話ですか?おじさんの作った話?オリジナルですか?

雨。

男2　あいつ、急にぶっ倒れてな。色々管つけてな。もう、意識は戻らへんやろて言われてるけどな。半開きの濁った目。空いた口。気持ちはあるんやろか。痛い、苦しい、気持ち悪い。できるだけ生きといてほしいわ。決定権は僕にあるんやし
女3　なんの話ですか?設定がよくわからないんですけど。それ誰?誰の話なんですか?

雨。

女3　大丈夫ですか?雨、強なってきましたよ
男2　冬。冷たい雨が何日も降り続いとった。もうすぐ朝が来るのに、真っ暗な道。アパート。2階の端の部屋。あい

つがたこやき提げて入ってった部屋。ドアの前。その人が立っとった。腕の中には白いタオル。彼女は階段を降りていって、姿が塀に隠れる。庭でザクザクと土を刺す音がする。隙間から覗き込む。彼女は掘っとった、ここを。ざくざくざくざく。傘も刺さんと。黒い服。ずぶ濡れで。僕は、傘を差しとった。彼女から、遠く離れて、傘を差して、暖かいコートを着て、濡れることなく、彼女を、見とった

女3　それがオチですか?よくわからないですね。変な話ですね

男2、また土を掘り始める。

女3　なんですか?なにがあるんですか?掘り出してどないするんですか?

男2、どんどん掘る。

女3　見つかるんですか?なんにもなかったらどないするんですか

男2　いてるよ

女3　なんで、なんでわかるんですか

男2　あるべきところに返すねん

女3　あるべきところってなんですか

男2は掘り続ける。

男2　こどもは、父親と母親と、手を繋いで、父親と母親に抱きしめられて、なんの理由もなくただ、その存在を、祝福されたらええねん。せやから、連れてってったんねん。あの糞みたいな男にところに。お前のこどもやって抱かせたん

ねん。頭撫でさせたんねん。ほんで
女３　それ、ひどいいやがらせですね
男２　ほんで、その人のところに、連れてったんねん。二人で、いや、三人で。父親と母親とこどもと三人で。僕の知らん、静かなとこで、眠ってくれたらええねん
女３　祝福って、なんですか

男2は女3を見つめる。
女3、傘をたたんでベンチに置く。
袋から缶を取り出す。
女3、男2に缶を差し出す。

女３　埋めてほしい

雨。

女３　かわりに、埋めてほしい

雨。
男2、缶を受け取る。

男２　開けていいか

男2、ゆっくり缶を開ける。
写真が出てくる。

女３　７週でした
男２　７週
女３　２２週という線をひく。２２週を過ぎると、わたしのなかから離れても生きることができる。じゃあ、２２週を

迎えなかったものは、ヒトなんやろか。ヒトとちゃうんやろか。写真、私のおなかのなか。なかにおったもんは、なんなんやろか。せやけど、考えるんやめました。決めなだめですから。私は、自分で決めたんです。手放すって

男2　自分で決めた

女3　誰も私を責めません。お母さんには言いました。相手も事情もよくある話つくって、とにかく決めたって言うたらなんも言われへんかった。病院の人もなにも言わへん。当たり前ですよね。前、向かな駄目ですもんね。私、受験生なんです。高校3年生。夢とかないですけど、大学行きたいし。この夏が勝負やし。こんなん、すぐ忘れなあかんし、なかったことにせんとあかんし

男2、写真を見ている。

女3　知ってますよ。再開発。まっさらにして。アスファルト敷いて。そしたら、二度と、ここから取り出されへん。これで、全部、なかったことになります

男2、応えない。

女3　おじさんの探してるもんなんてもうとっくにないんです

雨。

女3　かわりにそれ、埋めてください

男2、応えない。

女3　お願いやから

男2、写真を缶に戻し、蓋をする。

女3　なんでですか？

女3に缶を渡す。
女3、缶を受け取る。

女3　なんでなんですか？

男2、スコップを持って椅子に座る。

男2　ヒトなんか、ヒトでないんか、僕には、わからへん。
けど

雨。

男2　かなしんだったらええやん。泣いたったらええやん

女3、黙っている。

男2　抱きしめてええねん
女3　誰をですか
男2　自分と、その子を

雨。
二人に雨。

男2　しまっとかなあかんで

女3は、男2を見る。

男2　大事なもんは

女3、缶をゆっくり胸に押し当てる。

女3　心臓、動いてたんです

雨。

女3　そんなこと、知りたくなかった

雨。

男2、女3の傘を広げ、女3にさしかける。

溶暗。

8．私

団地の一室。
ダイニングテーブル。
テーブルの傍らに男４が立っている。
部屋の入り口に、女４。

男４　おかえり

女４、応えない。

男４　なんか食べる？
女４　なんで
男４　なんでって
女４　いらんよ。なんも
男４　からあげ。ピザ。フライドポテト
女４　なに
男４　油っぽいな

女４、黙っている。

男４　余りもんやったらいっぱいあんねんけど
女４　余りもん
男４　二歳になった。今日で

女４、黙っている。

男４　お誕生日会してん

女４、黙っている。

男４　こはるの誕生日。今日

女４、黙っている。

男４　おかんと、姉ちゃんと、ふみちゃんも来てくれて。ふみちゃん、もう小学校あがんねんて。ふーちゃん、ふーちゃん、言うて、こはる、今日はずっとついてまわっとったわ

女４、黙っている。

男４　ごはん食べて、プレゼント開けて、遊んで、ケーキ出して

女４　知ってるよ

男４　え

女４　誕生日

女４、椅子に座る。

男４　奥で寝てる

女４　え

男４　疲れてはよ寝た

女４、黙っている。

男４　俺が作ってん。誕生日ケーキ。手作り

女４　そうなん

男４　いや、つくるいうても、スポンジ買うてきて、生クリ

ーム塗っただけやけど。最後にこはるが苺のせて
女４　食べた？
男４　苺ばっかり食うとった
女４　へえ
男４　ほな、苺だけ食うとったらええやんって、みんながツッコんで。大人が生クリームのスポンジ頑張って食うて
女４　仕事は
男４　してる。左遷されたけど
女４　え
男４　冗談。ただの異動
女４　そうなん
男４　休んでも定時で帰ってもそない言われへんとこ

女４、黙っている。

男４　保育園いってる。一歳なる前から
女４　そう
男４　よう熱出す
女４　うん
男４　けろっと治ることが多いけど
女４　うん
男４　おしゃべりするようになった
女４　うん
男４　イヤ、イヤ、って言いだした
女４　あんな
男４　うん
女４　免許取った
男４　免許
女４　中古の、軽自動車買った
男４　軽自動車

女４　色んなところ走った。山の中、信号のない田舎の一本道。工場地帯。川。長い長い橋を渡った。海沿いの町

男４　うん

女４　車を止めた。外に出た。息を吸った。息を吐いた。私は私やった。私は安らいでた。あかんやんな。母親は、こんなんとちゃうやんな。普通にこどもの成長を喜ぶねん。普通にこどものすべてを優しく受け止めんねん。そのために全てを犠牲にすんねん

男４、黙っている。

女４　何回も、帰ろうと思った。ちゃんと母親になったら、家に帰るって決めた。図書館で育児の棚にある本を一冊ずつ順番に広げる。ネットで動画を探す。おいしい離乳食のつくりかた。言葉が増える読み聞かせ。ふれあい。歌。おもちゃ。病気のこと。発達について。これで大丈夫。今度こそ大丈夫。けど、帰られへんかった。なんでちゃんとでけへんねやろう。街を歩く。ベビーカーを押すお母さん。抱っこで歩くお母さん。にこにこしてる。やさしく笑ろてる。まぶしい。目を背けた。私は、逃げ出してた

男４　おかえり

女４、黙っている。

男４　帰ってきたやん

女４、奥の部屋の前に立つ。

女４　母親なら、今から、ドアを開(ひら)いて

女４、立っている。

女４　開いたドアの隙間から、そおっと起こさないように部屋に入って、こはるのそばに座る。頭を撫でる。抱きしめる。母親やったら、涙を流す。今まで、ごめんねって言うて謝る。許して、って言う。これからはちゃんと母親になるから、一緒にいさせてほしいって言う。母親やったら

女４、立っている。

女４　私は私を殺せばええ。誰にもわからんように私は呼吸を止めたらええ。母親はこはるを選ばんとあかん。私は私を押し殺して母親になる。それですべてはうまく行く。けど、

女４、立っている。

女４　私は、母親にはなられへん

女４、立っている。

男４　お前は、ちあきや
女４　え
男４　母親の前に、ちあきやん
女４　なに、なに言うてんの
男４　俺はちあきのことを想像した。ちあきがどんな気持ちやったか想像した

女４、きいている。

男４　ベランダ。夜。静かな街。ちあきの見てた景色を、想像した。わかれへん。俺、全然、わからへんかった。ふりかえったら、こはるが立ってた。「なにー」って。それから、空見て、「たいよー」って言うた。満月やった。「お月さまやで」って言うた。月が、こはるの顔を照らしてた

女４、きいている。

男４　傲慢やった
女４　傲慢
男４　俺のかなしみは、俺だけのもので
女４　うん
男４　こはるは、確かにそこにおって。こはるはまっすぐに月を見てて
女４　うん
男４　ちあき
女４　なに
男４　ごめん
女４　え
男４　ひとりにして

女４、男４を見つめる。

女４　翔太
男４　なに
女４　別れてほしい

男４、きいている。

女４　こはるを傷つけたんは、本当やから

男４、黙っている。

女４　翔太を傷つけたんは、本当やから

男４、黙っている。

男４　ちあきが、こはるを抱きしめたいと思ったら
女４　うん
男４　いつでもええから
女４　うん
男４　いつも、待ってるから
女４　ありがとう

女４、こはるがいる部屋を向く。
こはるは、ドアの向こう側。

女４　ハッピーバースデートゥーユー

開けられないドア。

女４　ハッピーバースデートゥーユー

歌うのを止める女４。

男４　ハッピーバースデー

女４、男４を見る。

二人　ディアこはる

ドアの向こうでは、こはるが静かに眠っている。

溶暗。

9．奇跡

列車。
男1、女1。
窓の外には、太陽。

男1　海の向こうに入り始めました。落ち始めると早い
女1　はい
男1　やっぱり夕陽でしたね
女1　そうですね
男1　決まりましたか、捨てる場所
女1　困ってます。ここ、というところがなくて
男1　そうですか
女1　やっぱり、海ですかね
男1　海
女1　砂浜がいいですね
男1　砂浜ですか
女1　誰もいない海
男1　そうですね
女1　なにもない海
男1　決め手はなんでしょうか
女1　え
男1　捨てる場所の

女1、自分の手を見ている。

女1　私の手から、海へはなします。そうして、波に乗って、
どこまでも海の上を旅するのかもしれません。遠い国の、
どこかの浜辺に辿り着くかもしれません。深い深い海の底

で眠るのかもしれません
男1　二度と、会えなくなるかもしれませんね
女1　え？
男1　いや、戻って来るかもしれませんね

女1、黙っている。

男1　一周まわって、同じ浜辺にまた辿り着くかもしれませんねえ
女1　もしそうなったら
男1　はい
女1　それはそれ

窓の外、海。
警笛が鳴る。

男1　次で降ります
女1　そうですか
男1　いえ、どうしましょう
女1　え
男1　わかりません
女1　わからない
男1　降りても、行かないかもしれません。また、すぐに同じ列車に乗るかもしれません。その人に会うかもしれません。いえ、会わないかもしれません。会うてもなにも、言わないかもしれません
女1　そうですか
男1　その人の目の前で、（胸をおさえ）このあたりに、なにか生まれて
女1　はい

男1　なにか、傷つけることを言ってしまうかもしれません
女1　いいですね
男1　え
女1　自由
男1　自由
女1　全部言うたらあかんのでしょうか
男1　全部
女1　傷ついたことも、幸福やったことも、全部

列車。

女1　どんぐり
男1　え

男1、どんぐりを取り出す。

女1　お守りですね。あなたの
男1　そうですか
女1　空っぽのがあるかもしれません。けど、あなたといっしょに過ごしてきたどんぐりです。空っぽではありません
男1　あなたが手に持ってらっしゃるその子
女1　はい
男1　ひとりです

女1、ゆっくり、白い布を解く。
中から小さな骨壺。
骨壺の蓋を開けて、ひっくり返す。

女1　空っぽです

なにもない。

女1　私のとこには、訪れへんかった

なにもない。

女1　決めてました。名前

なにもない。

女1　けど、渡せませんでした

男1　空っぽではありません

女1　え

男1　いろんなものが入ってます

列車の音。

男1　確かなものがひとつ、見えます

女1　なに

男1　願ったあなたが

窓の外、沈んでゆく太陽。

女1　太陽は動いてますか

男1　沈んでいきます

女1　朝を、迎えにいくんですね

男1　もし、そうだったら

女1　はい

男1　明日がありますね

女1　明日

男1　海の向こうに、明日が

太陽は、海の向こうへ。

溶暗。

【おわり】